

西国巡礼慈悲の道

西国第三十三番

谷汲山

華嚴寺

道破十穀上人

山主 久保寺美好



当山華嚴寺本堂の回廊を裏へまわると苔ノ水地蔵尊が安置されています。その苔ノ水地蔵尊の向かって右側に、ある上人の木像が奉つてあります。この上人、名前を「道破十穀」といい、華嚴寺中興の祖と敬われています。

約五百年余前、応仁の乱など幾重なる戦禍で華嚴寺が焼失して復旧が困難となった時のこと、薩摩國慈眼寺の住職であった道破十

穀上人の枕辺に、ある夜、

華嚴寺本尊である十一面観音様が立ちになり、「汝、有縁の僧なれば、早く来りて諸堂を旧観に復せよ。」

とのお告げがあり、上人はこれを霊夢に感じ、すぐさま谷汲の地に来られ、文明十一年から約八年の歳月を費やし、華嚴寺を立派に再建されたのです。

またこの道破十穀上人の木像は、雨乞いの仏様でもあられ、上人像の前で読経

し、お百姓さんたちの手

で、紅・白粉で入念に化粧

をし、輿に乗せて谷川まで

運び、谷川に着いたら上人

像を輿から降ろし、水の中

へ投げ込み続いてお百姓さ

んたちも水の中へ一緒に飛

び込み、上人像に水を浴び

せたり、水中へ沈めたりし

ます。そうして大方化粧が

洗い落とされたところ、上人

像に再度化粧を施し、雨乞

いを祈願します。

この一見、奇習とも思え

る雨乞いは、道破十穀上人

が日照り続きで苦しんでい

るお百姓さんたちを救うた

めに谷川の水で身を清め、

顔に化粧をして一心に経を

唱えると、たちまち一天俄

かに掻き曇り、大雨が降り

注いだという霊験に由来し

ています。

そうして上人は晩年に風

雨順次、五穀豊穡を祈願し

て自ら一刀三礼の木像をお

作りになられ、その後村人

たちはこの木像を上人と崇

め、この雨乞い祈願を行う

ようになったといひます。

現在この雨乞いは行われ

ていませんが、上人様のお

顔には、いまだに紅・白粉

の化粧が残っており、お参

りの際には拝見することができます。



西国第三十三番

谷汲山 ^{け こん じ} 華嚴寺

天台宗

御本尊／十一面観世音菩薩 開基／豊然上人・大口大領

よをてらす ほとけのしるし ありければ まだともしびも きえぬなりけり
 よろずよの ねがいをここに おさめおく みずはこけより いずるたにぐみ
 いままでは おやとたのしみ おいづるを ぬぎておさむる みののたにぐみ

✳ 主な年中行事 ✳

2月節分の日 節分星祭

2月18日 五穀豊穰・商売繁盛祈願祭

春(4月上旬) 桜祭り

8月17日夜 十七夜会式

秋(11月中旬) 紅葉祭り

❀ 観音風光 ❀

お寺へのお参りの手段も月日とともに変化していきます。現代では、自家用車や観光バスでのお参りが多いようで、平成13年の秋には、時代の流れとともに名鉄谷汲線が廃線となりましたが、旧谷汲駅には、昭和初期から走っていた“赤い電車”が保存されており足を止めて昔を懐かしむ人の姿があります。

ご詠歌の意味

華嚴寺には、西国満願の札所として花山法皇がお詠みになられた三首の御詠歌があります。それぞれ、現世、過去世、未来世を表し、「世を照らす～」は現世を表した御詠歌です。観音様の大慈大悲の心は、私たちがこの世の道を迷わぬよういつまでも照らし導いて下さるのです。

〒501-1311 岐阜県揖斐郡揖斐川町谷汲徳積23

TEL 0585-55-2033 <http://www.kegonji.or.jp>

納経時間 午前8時～午後4時30分

西国三十三所札所会ホームページ <http://www.saikoku33.gr.jp>

西国霊場にご参拝の時は納経帳や白衣を忘れずにご持参ください。2回目以降はご参拝の印として重ねて納経印をいただきますよう。